



藤紫



←市のHPからも見られます！

藤枝市立藤枝中学校 学校だより  
令和7年度 全国学調特別号

## 全国学力・学習状況調査 本校の結果・考察

藤枝中学校では、教科の本質に迫り、教科特有の考え方やものの見方を身に付け、思考力・判断力・表現力の育成を目指して、日々授業を行っています。一斉学習を中心に、生徒が習熟度や関心、学習方法から自分に合った学びを選び取る「個別最適な学び」も行うことで、生徒の主体性を育んでいます。また、自分とは違った意見や考えに触れることで、よりそれらの力は育成され则认为、学級全体で考えや意見を共有したり友達と教え合ったりする「協働的な学び」も大切にしています。

本年度4月実施の全国学力・学習状況調査は、例年の国語・数学に加え、理科が実施されました。理科においては、紙ではなくコンピューター上で実施する方式(Computer Based Testing)で行いました。本校3年生の結果と考察を報告します。これらを生かし、日々の授業において、実態に応じたきめ細かい指導を今後も継続しながら、生徒一人ひとりの学習意欲の向上と内容の定着、他者と学ぶ楽しさの実感を目指し、努めていきます。また、ご家庭とも連携しながら、日頃からの学習への取組や生活習慣等についても励ましや支援を行い、生徒のさらなる成長へと繋げていきたいと考えています。

### 全国学力・学習状況調査とは？

文部科学省が、全国的に子どもたちの学力状況を把握するために平成19年度から実施しているもの。

### 【 目的 】

- ①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 教科に関する状況

### 全国と県の平均正答率と比較して見えてきた本校3年生の状況

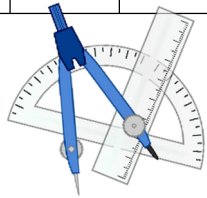
★★	平均を大きく上回る (+3%以上)	—	平均と同程度 (±1%)	▽▽	平均を大きく下回る (-3%以上)
★	平均を上回る (+3%未満)			▽	平均を下回る (-3%未満)

国語	県との比較	全国との比較
	—	—



- 変換した漢字として適切なものを選択する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- 聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する問題で、県・全国平均を上回った。
- 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く問題で、県・全国平均を上回った。
- ▲スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する問題で、県・全国平均を大きく下回った。
- ▲手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する問題で、県・全国平均を大きく下回った。無解答率も34%を超えた。

数 学	県 との 比較	全国 との 比較
	—	★



- 三角形の外角を求める問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- ある事柄が常に成り立つとは限らないことを説明するために反例をあげる問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- じゃんけんカードゲームで1回目に A が勝つ確率を求める問題やある場合において A と B のどちらが勝ちやすいかの判断理由を説明する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- ▲一次関数の y の増加量を求める問題で、県・全国平均を大きく下回った。
- ▲式の意味を読み取り説明する問題や関数を利用した運賃の求め方を説明する問題、平行四辺形であることを証明する問題のいずれも無解答率が 30% 近かった。

理 科	県 との 比較	全国 との 比較
	—	★



- 電気回路について、抵抗が大きい方や速く水が温まる方を選択する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- 数種類の生物の中から、呼吸を行う生物をすべて選択する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- 水道水と精製水に関する2人の発表から、新たな疑問や生活との関連などに着目した振り返りを記述する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- 設定した仮説が正しい場合の実験結果の予想を選択する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- 牧野富太郎のサユリのスケッチから、茎の横断面・根として適切なものを選択する問題で、県・全国平均を大きく上回った。
- ▲いくつかの地層の性質から、水が染み出る場所を選択する問題で、県・全国平均を大きく下回った。

## 生活に関する状況

### 全国と県の平均回答率と比較して見えてきた本校3年生の状況

★★	平均を大きく上回る (+3%以上)	—	平均と同程度 (±1%)	▽▽	平均を大きく下回る (-3%以上)
★	平均を上回る (+3%未満)			▽	平均を下回る (-3%未満)

項目	県 比較	全国 比較
朝食を毎日食べている。	★★	★★
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	—	★
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	★	★
自分には、よいところがあると思う。	★★	★★
先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。	★	★
将来の夢や目標を持っている。	▽▽	▽▽
人が困っているときは、進んで助けている。	★★	★★
人の役に立つ人間になりたいと思う。	★	★

項目	県比較	全国比較
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	★★	★★
学校に行くのは楽しい。	★★	★★
自分と違う意見について、考えるのは楽しいと思う。	★★	★★
友達関係に満足している。	★	★
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	★	★★
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。	—	—
授業時間以外に普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上勉強をしている。	★★	★★
授業時間以外に普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上読書をしている。	▽▽	▽▽
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	★★	★★
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできた。	—	★
授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていた。	★	★
生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	—	★
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	▽	▽
友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	★★	★★

## まとめ

国語の学力調査では、平均無解答率が低く、粘り強く問いに向き合う傾向があることがうかがえます。授業の中で切実感のある「問い」を設定し、課題の解決に向けて自ら取り組んでいく経験が今回の結果に生かされていると感じます。「知識・技能」の観点において、県・全国の平均正答率を上回りました。その中の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については例年課題に挙げられていましたが、文脈に即して漢字を正しく使う問題については、県・全国を大きく上回りました。しかし、正答率は41%でした。また、事象や行為を表す語彙の正しい意味を選択する問題については、下回りました。日々の漢字学習に加え、実際に書く活動を通して漢字を正しく用いる態度と習慣を継続して培っていく必要があります。語彙の理解については、新しく覚えたものを短文や作文に取り入れたり、本や新聞など幅広い文章に触れたりする機会を増やして改善を図ります。「思考・判断・表現」の観点では、いずれも全国は上回ったものの、県は下回っています。4問ある記述式の問題形式では、平均正答率が28.4%でした。自らの考えの「理由」や「根拠」を明確に示して解答することにつまずき、誤答となっていることが目立ちました。どこを手がかりとして考えたのか、どのようにしてその考えに至ったのか、相手の立場に立って話したり書いたりする場を設け、書く力の育成を目指します。

数学では、「知識・技能」の観点では、正答率が県とは同程度で、全国は上回りました。特に、「図形」領域の図形の性質を答える問題や「データの活用」領域の相対度数や確率を求める問題で全国を大きく上回っており、必要な知識が定着していることがうかがえます。「思考・判断・表現」の観点では、県・全国を上回りました。その中の5問の記述形式の問題も4つは県・全国を上回っており、授業の中で生徒が安心感を得ながら自分の考えを自由に話したり書いたりする場を大切にしてきたことで、自分の考えを論理的に説明する力が養われた成果だと感じます。しかし、式の意味を読み取る問題や運賃の求め方を説明する問題、図形の性質について証明

する問題において、無解答率が30%近くありました。多様な見方をしたり解答を求めるまでの過程を説明したりすることが困難であることが要因にあげられます。相手との関りの場を大切にしながら、多様な考え方に触れたり相手に自分の考え方を説明したりする場面を積極的に設定し、答えよりも答えに至る過程を大切にしていける姿を育成していきます。また、ICTを活用しながら条件を変えた課題を協働的に追究していく場面も設定し、数学の事象について統合的・発展的に考える力の育成も目指します。





理科では、「知識・技能」に関する問題は5問中4問、「思考・判断・表現」に関する問題は5問中3問が県・全国の平均正答率を上回りました。平均IRTスコア(全国平均 500 点を基準にした学力の位置づけを示す指標)においても県・全国を上回り、難しい問題にも対応でき、深い理解や応用力を示すバンド5に区分された生徒の割合も上回りました。今回のテストはCBT方式(タブレット端末で解答)で実施されましたが、授業においてタブレット端末の活用が定着しており、それが生徒の操作性や理解力の向上に寄与していると考えられます。また、仮説や考察を自らの意思で構築し、他者との対話を通じて実験計画や結果について議論することで、生徒の科学的思考力や表現力が向上していると考えられます。しかし、設定した仮説が正しい場合の実験結果の予想を選ぶ問題では、正答率が 40%に届きませんでした。これまでの知識や技能を活用して、仮説が正しいとした場合の結果を適切に予想する力に課題が見られました。他者と考察について話し合い実験方法をイメージしたり、複数の仮説を提示し、実験結果をもとにどの仮説が妥当であったかを考察したりする場面を授業の中に意図的に位置づけ、改善を図っていきます。



生徒質問紙からは、「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「幸せな気持ちになる」と回答した割合が高く、県や全国を上回っており、充実した学校生活が送られていると考えられます。これは、「人が困っているときは、進んで助けている」や「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と多くの生徒が回答していることから、多くの生徒が他者との関りを大切にし、思いやりの心を持って過ごしている結果ではないでしょうか。

「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した生徒は、県・全国に比べ多い反面、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は、約 60%でした。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した生徒は、85%以上で、昨年度に比べ大きく増えました。総合的な学習の時間(探究)を中心に、家庭や地域と協力・連携を図り、「ふるさと学習」「キャリア学習」をさらに充実させ、ふるさとの誇りや夢、希望をもてるような指導をしていきます。



「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒が約 95%、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した生徒が約 80%でした。しかし、その裏には否定的な回答をした生徒がいます。この結果を真摯に受け止め、「笑顔で迎え笑顔で帰す」を目標に、より一層生徒一人ひとりに目を向け、積極的に関わっていき、誰もが安心できる学校づくりに努めます。

朝食や起床・就寝時刻など、規則正しい生活が、生徒の学校生活の充実や心の安定につながっています。いつもありがとうございます。保護者の皆様や地域の方々の温かな支えや励まし、つながりが、生徒たちの安心感・自己肯定感・自己有用感を高め、健やかに成長していきます。引き続き、学校・家庭・地域が連携し、生徒たちの成長を見守っていきましょう。「はばたけ！ ふるさとの誇りを担う子どもたち」のキャッチフレーズのもと、今後もよろしくお願いいたします。



令和7年度全国学力・学習状況調査の全国の結果や報告書は、下記の国立教育政策研究所のサイトから確認ができます。

URL: <https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/>

QRコード →→→

